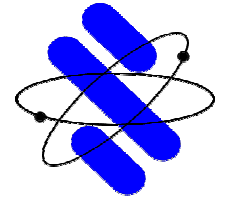


# 平成18年3月期業績レビュー と 平成19年3月期の見通し

平成18年5月31日

株式会社 昭和システムエンジニアリング

# 目 次

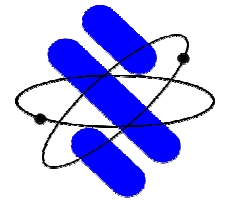


## 平成18年3月期業績レビュー

1. 業績概要	1
2. 業績の推移	2
3. 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業)	3
4. 事業別業績推移(入力データ作成事業)	4
5. 事業別業績推移(受託計算事業)	5
6. ソフトウェア開発事業の市場別売上	6
7. 貸借対照表	7
8. キャッシュフローの推移	8
9. 経営指標の推移	9

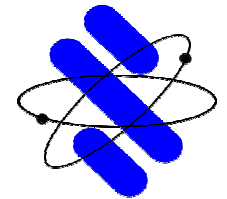
## 平成19年3月期の見通し

10. 市場の動向と当社の対応	10
11. 業績見通し	11



---

# 平成18年3月期業績レビュー



# 1. 業績概要

## ■ 売上高

4,324百万円  
(前期比△1.7%)

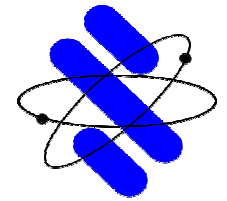
## ■ 経常利益

205百万円  
(前期比67.9%増)

## ■ 当期純利益

105百万円  
(前期比209.2%増)

- 売上高は、利益重視の選択受注を基本に拡大を計りましたが、ソフトウェア技術者の不足により受注を断念せざるを得ない状況が発生し、前期比1.7%の減少となりました。
- 利益は、営業強化によるSI受注の拡大、不採算部門の収益改善策等を徹底してまいりました結果、経常利益が前期比 67.9%の増益となりました。



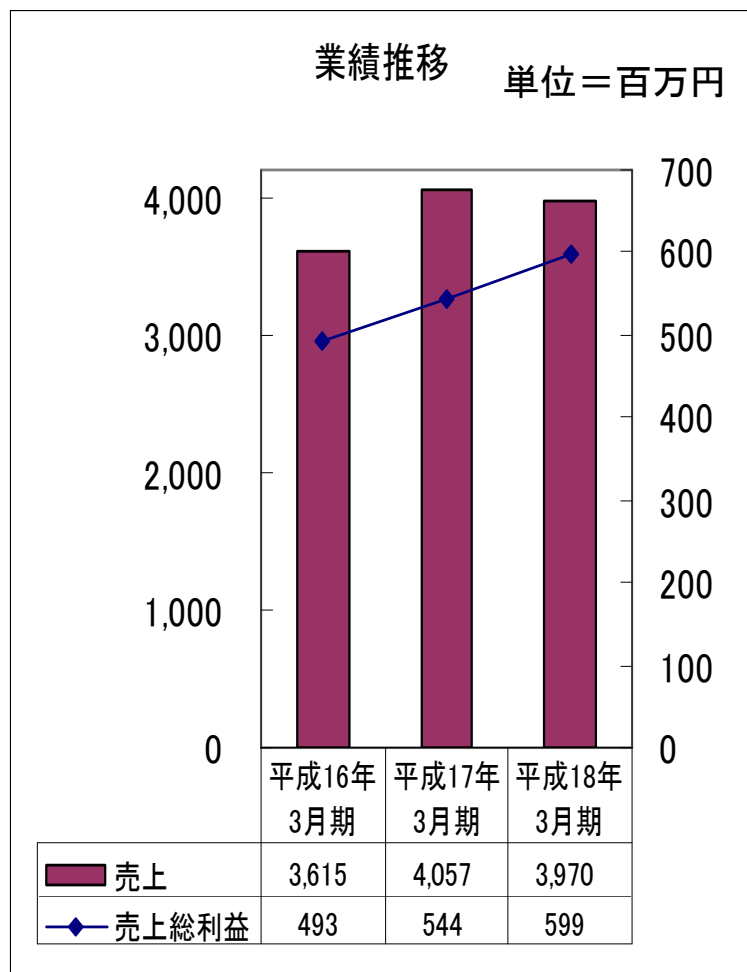
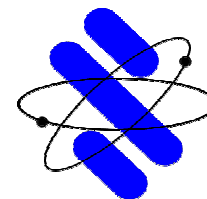
## 2. 業績の推移

単位＝百万円

	平成16年 3月期	平成17年 3月期	平成18年 3月期	
売上高	4,063	4,401	4,324	→
営業利益	104	118	204	↗
経常利益	163	122	205	↗

平成18年3月期は売上は若干減少したが  
営業利益・経常利益は大幅に増益となった

### 3. 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業)



マーケット状況は回復傾向にありましたが、顧客からの短納期・高品質・低価格の要求は依然厳しく、また技術者不足も深刻な状況を極めました。

このような環境下、オフショア開発の拡大等の対応策を講じ、受注形態の改善を実施してまいりました。

#### 【結果】

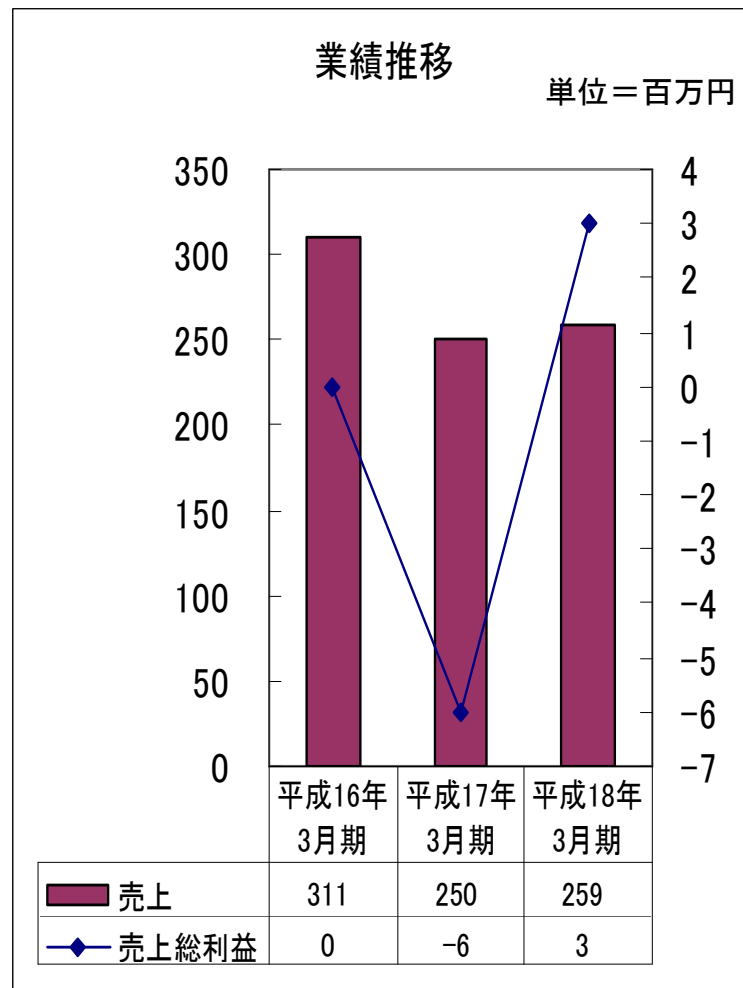
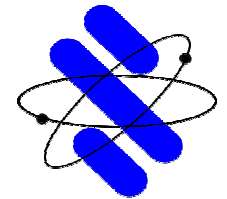
売上高

3,970百万円(前期比2.2%減)

売上総利益

599百万円(前期比10.2%増)

## 4. 事業別業績推移(入力データ作成事業)



マーケット全体の単価下落が続く厳しい環境下、生き残りをかけ付加価値創出(イメージ入力導入によるセキュリティ強化等)に全力を注ぎ、売上拡大、赤字脱却を実現いたしました。

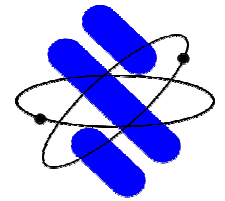
### 【結果】

売上高

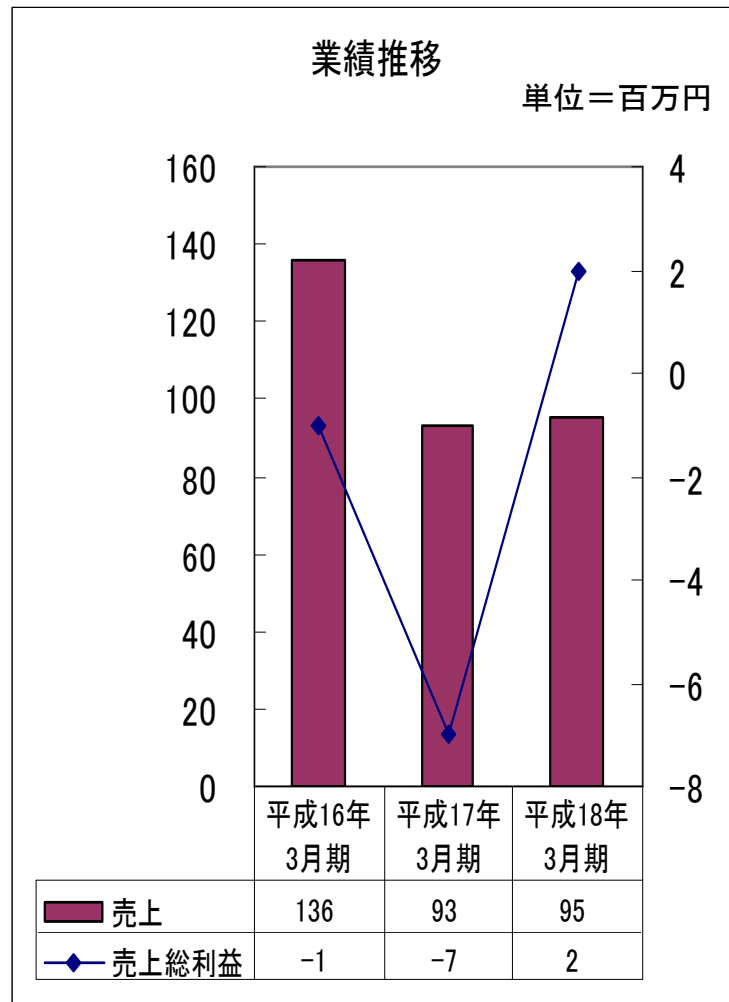
259百万円(前期比3.5%増)

売上総利益

3百万円(前期は6百万円の損失)



## 5. 事業別業績推移(受託計算事業)



小規模コールセンター業務等の新ビジネスモデルを確立し、売上減少に歯止めを掛けました。又、採算を重視した顧客との契約形態の見直しや不採算事業の撤退等により、赤字からの脱却を実現いたしました。

### 【結果】

売上高

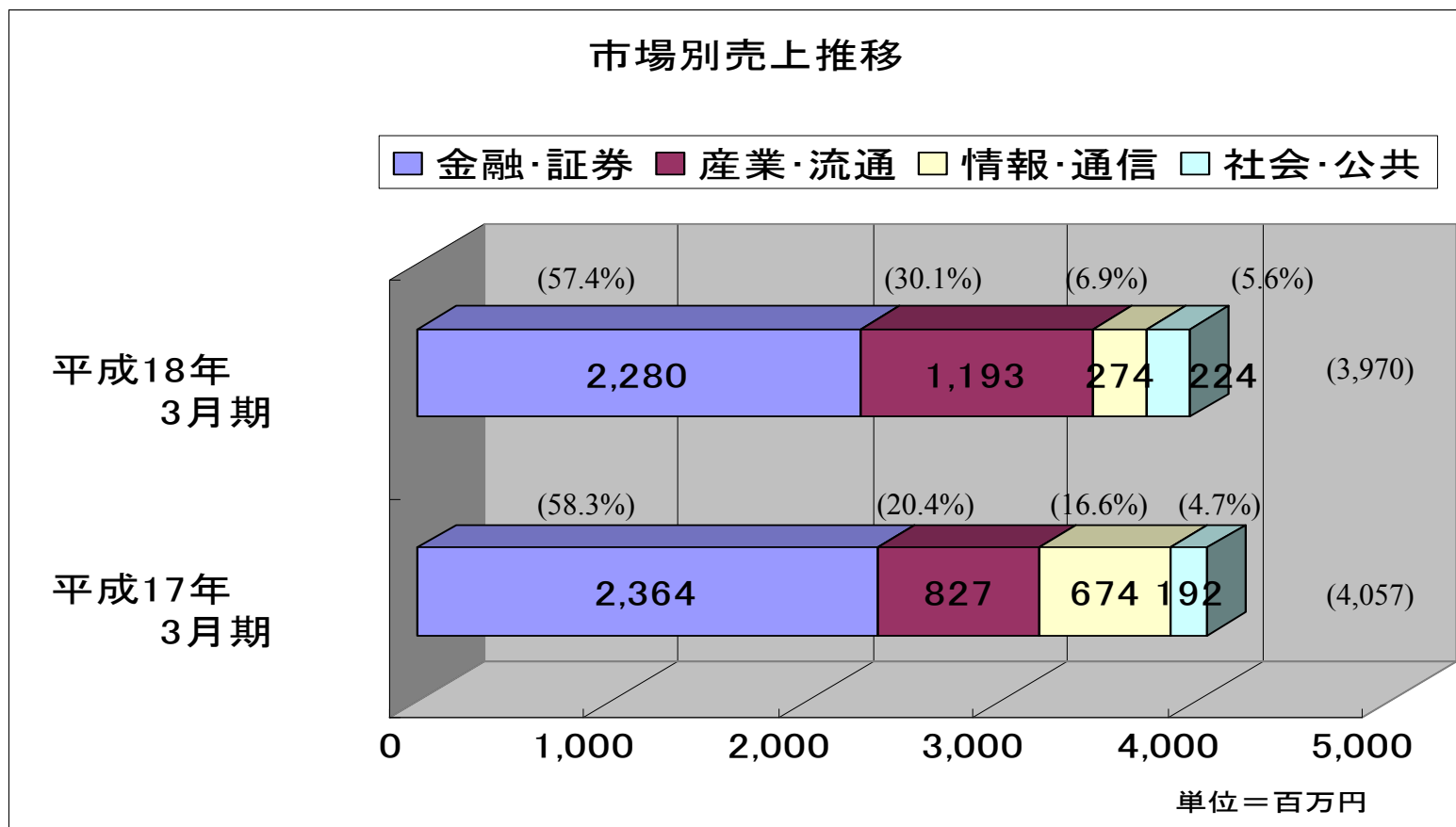
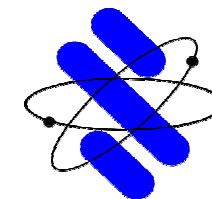
95百万円(前期比2.3%増)

売上総利益

2百万円(前期は7百万円の損失)

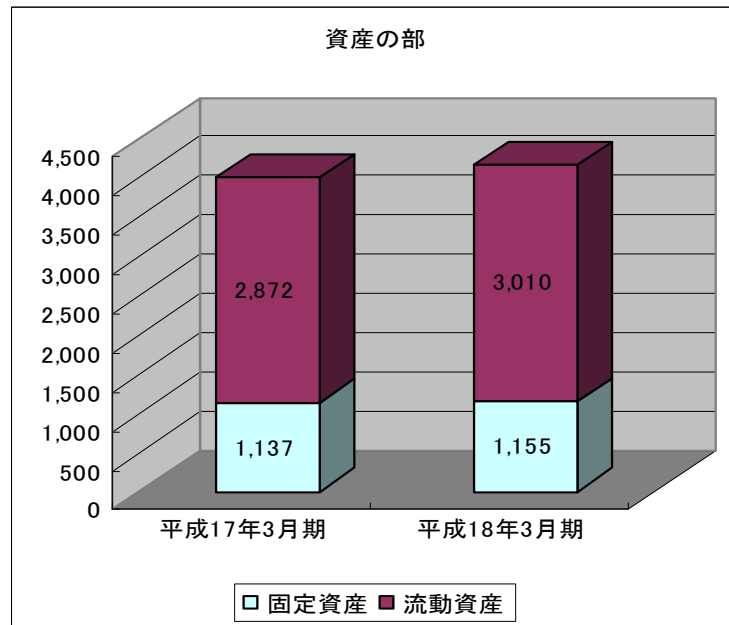
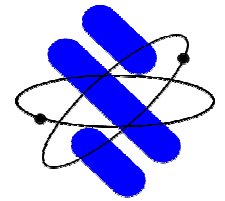


## 6. ソフトウェア開発事業の市場別売上

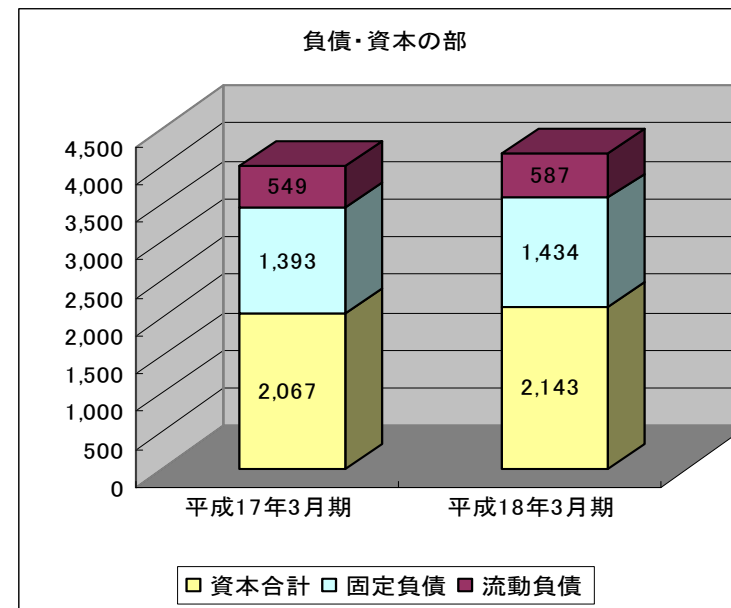


産業・流通向けの受注が増大  
情報・通信向けの受注が減少

# 7. 貸借対照表



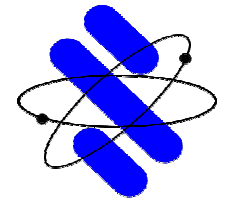
	平成17年3月期	平成18年3月期
流動資産	2,872	3,010
固定資産	1,137	1,155
資産合計	4,010	4,165



	平成17年3月期	平成18年3月期
流動負債	549	587
固定負債	1,393	1,434
資本	2,067	2,143
負債・資本合計	4,010	4,165

流動比率が500%以上の安全性

常に自己資本比率50%以上を維持する健全経営

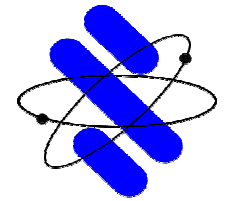


## 8. キャッシュフローの推移

単位＝百万円

	平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	17	394	29
投資活動によるキャッシュフロー	172	12	122
財務活動によるキャッシュフロー	△ 87	△ 48	△ 49
現金及び現金同等物の増減額	102	359	102
現金及び現金同等物の期末残高	1,589	1,948	2,051

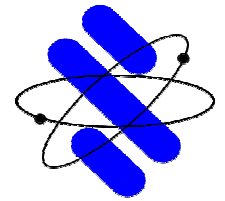
キャッシュフローは増加傾向



## 9. 経営指標の推移

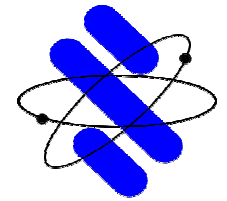
		平成16年3月期	平成17年3月期	平成18年3月期	
収益力	ROE(株主資本利益率)	3.7%	1.6%	5.0%	↗
	売上高経常利益率	4.0%	2.8%	4.7%	↗
安全性	自己資本比率	53.4%	51.6%	51.5%	→
	流動比率	580.8%	522.9%	512.1%	→
	1株当り株主資本(円、銭)	434.16	429.80	445.88	↗

収益力、安全性ともに安定化・上昇傾向



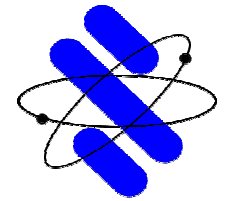
---

# 平成19年3月期の見通し



## 10. 市場の動向と当社の対応

市場の動向	当社の対応
■ 金融・流通・官公庁を中心に大規模システム開発案件が増加傾向にある一方、技術的な要求レベルは高度化の傾向にある。	■ <u>営業力の強化</u> 外部からの招聘を含め営業要員の増員を図ると共にマーケットの要求スキルをいち早く察知し、タイムリーに供給できる体制を築く。
	■ <u>人材育成</u> 社内に人材育成ボードを設置し長期教育計画を立案し実施する。
■ 顧客からの短納期・高品質・低価格の要求は依然厳しい状況にある。	■ <u>プロジェクトマネジメント・品質管理の強化</u> PMOの新設、ISO9001(品質マネジメントシステム)の更なる徹底、プロジェクトマネージャー要員増強を目指した教育を強化する。
■ ソフトウェア技術者の慢性的な不足により、開発要員の確保が厳しい状況にある。	■ <u>コアパートナーとの関係強化</u> 国内外を問わず、現コアパートナーとの関係を強化すると同時に新規パートナー拡大に専門要員を配置する。
	■ <u>採用拡大</u> 新卒採用枠及びソフトウェア技術者中途採用枠の大幅拡大を実施する。



# 11. 業績見通し

単位＝百万円

	平成18年3月期	平成19年3月期		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	4,324	4,500	176	4.0%
経常利益	205	230	25	12.2%
当期純利益	105	116	11	10.1%

平成19年3月期は増収増益を予定